



### 3. 事業名

- ・ 事業目的・内容をふまえた簡潔な事業名を記入してください。

### 4. 申請金額

- ・ 申請金額を記入してください。

### 5. 事業目的（コンセプト）

- ・ 本事業を行う背景（事業対象地の地況、林況、森林整備の現状）・課題とそれらを踏まえた事業目的（意図、思いなど）を具体的かつ簡潔に記入してください。

### 6. 事業内容（概要）

- ・ 本事業を行う地域、事業対象地における森林整備の現状、課題と、それを踏まえて、今回申請している事業の具体的な内容を記入してください。
- ・ 具体的内容としては、荒廃した民有林の一定の区域（事業対象地）において、複数の森林所有者との長期契約を締結した上で、公益性を発揮し、費用対効果に十分配慮した創造的な事業であることをアピールするために、以下のポイント等について記入してください。
  - ①地域、事業対象地の現状、課題
  - ②地域の特性を踏まえた公益性が高く、創造的な事業である根拠
  - ③長期安定的な契約についての取組状況（当該地についての考え方を含む。）
  - ④再生事業の具体的な内容（森林整備を含むハード事業は必須です。）
  - ⑤事業を実施するにあたり、経費の算出で特に留意した点（機械化と路網の組合せによる新たな生産システムへの取組による低コスト化など）

### 7. 森づくりの長期ビジョンと本事業の位置付け

- ・ 貴法人が定めている地域の森林管理の中長期的なビジョン、森林管理方針などの森づくりのビジョン（特に決定した森づくりのビジョンが無い場合は、地域の森林整備を森林所有者に働きかけを行うに当たっての基本的な考え方等）と、今回応募した本事業が森づくりのビジョンなどとの関係においてどのような位置付けになるかについて記入してください。NPO 法人等の場合は、「地域」については、「活動区域等」と読み変えてください。
- ・ 本事業の位置付けとは、地域全体の森林管理の中で事業対象地の現状がどのような位置づけ（地域全体の中で、事業対象地は森林管理の状況が比較的低位にある、路網の整備が著しく遅れているなど）にあり、森づくりのビジョンなどに基づいて、どのような整備を行おうとしているのかを記入してください。
- ・ 本事業を行うに当たって、参考とした先進事例、施業方法、専門家からの指導等があれば記入してください。
- ・ 従来から連携してきた行政、地元住民、森林ボランティア団体、森林・林業関連団体等との連携を発展させるもの、あるいは、今後連携を図っていく予定があるものについては、そのようなことも記入してください。

### 【記載例】

#### (1) 森づくりの長期ビジョン

近年、森林に対する国民の要請は多様化、高度化している。一方、これまで営々として育てられてきた人工林は成熟化し利用期に入ったものの、間伐等の森林整備の遅れなどその管理や林業生産活動が停滞している。

当組合としては、持続可能な林業経営、国民の多様な要請に応える森林整備を推進するため、特に期待する機能の区分(機能区分)ごとに目標とする森林の姿(目標林型)等を明らかにした森づくりの長期ビジョンを策定し、森林整備の指針としている。

#### ア 機能区分

地域における森林の位置づけや地況、林況等を基に、特に期待する機能により、①木材等生産機能を重視する「生産林」、②公益的機能を重視する「環境林」に区分する。

#### イ 目標林型

##### (ア)生産林

- ・人工林のうち、長伐期大径材生産を目的とした林分は、80年生で平均胸高直径36cm、ha当たり本数500本程度の林分を目指す。また、その他の林分(間伐しても肥大成長が期待できない林分等)は、通常の伐期(50～60年生)とし、平均胸高直径30cm、ha当たり本数800本程度の林分を目指す(スギ人工林)。
- ・天然林のうち、生産林として適当な林分は皆伐を行い、育林コストのかからない萌芽更新を主体に天然生林として管理する。

##### (イ)環境林

- ・人工林のうち、急傾斜地、尾根筋、溪流沿い等で生産林に区分することが適当でない林分は、天然力を活用した天然生林へ移行する。
- ・天然林のうち、環境林に区分する林分は、それぞれ期待する公益的機能の高度発揮を目指した必要最小限の施業を実施するが、当面施業を見送ることも考慮する。

#### (2) 本事業の位置づけ

本事業においては、上記ビジョンに基づき、機能区分ごとの森林ゾーニングを行い、生産林において搬出間伐等の必要な施業を行うことを計画している。

対象事業地には、間伐遅れ等により気象害の恐れが高い林分が多くあり、これらの林分における施業方法(間伐率、選木方法等)について、引き続き〇〇県等の指導を受けながら現地で十分検討・実行し、その結果は、事業終了後も検証していくこととする。

また、本事業の成果については、ビジョンに定める「目標とする森林」へ誘導する施業方法のモデル林とすることで、森林所有者の森林への関心、理解を深めることとする。

## 8. 本事業実施による波及効果

- ・ 本事業の成果として想定している事項について記入する（生産性の向上等については、出来る限り定量的に）とともに、次のような波及効果についての考え方を記入してください。
- ・ 例えば、地域内の波及について、他に類似の荒廃森林が〇ヶ所、〇〇haあり、本事業の経験、実績展示等による情報発信等により、次年度以降に森林整備を計画する予定であるなど、今後の具体的な数字を含めた波及効果について記入してください。
- ・ また、地域内の波及に加えて、インターネットによる情報発信等により広域、全国への波及を考えていることなどについて記入してください。

## 9. 事業対象地とハード事業の内容

- ・ 事業対象地の森林については、団地が複数ある場合には、団地ごとに所在地、面積、森林所有者数を記入してください。

- ・ 事業実施箇所ごとの森林現況とハード事業の内容については、事業実施箇所を示した図面（下記の添付資料）に記入した番号ごとに、区域面積、樹種・林齢（齢級）、面積、ハード事業の内容を記入してください。また、必要に応じて、作業内容、仕様が分かるように間伐方法（定性／列状、搬出／伐捨）や間伐率（本数／材積）、搬出率等の数値などを加えてください（記載例 1 参照）。

#### 10. ソフト事業の内容

- ・ 本事業の中のうち、ソフト事業としての取組について、何のために、何を行うのかについて具体的に記入してください（記載例 1 参照）。なお、ソフト事業のみの申請も認めます。この場合、次年度以降に必ず森林整備のハード事業を計画し、ソフト事業の計画と同時に提出してください（記載例 2 参照）。「項目 1～8」についても、ソフト事業のみだけではなく、ハード事業とソフト事業の内容を一体的に記してください。

#### 11. 施業カレンダー

- ・ ハード・ソフト事業として予定している事業項目ごと（項目が多すぎる場合は、適宜まとめて下さい。）に、月次の実施計画を施業カレンダーに図示してください（記載例 1 参照）。

#### 12. 事業費・助成金

- ・ ハード・ソフト事業にかかる経費、助成金以外の収入および本件助成金額を算出するに当たっては、表に記載されている単位ごとの単価を基に出来る限り詳細に計算してください（記載例 2 参照）。単価の算出根拠については、後日改めて照会させていただくことがありますので、採用した算出根拠は明らかにしておいてください。
- ・ 算出根拠の単位が指定されていない項目に関しては、新たに単位を記入してください。

#### 13. 写真

- ・ 事業対象地の写真のうち、事業の背景や必要性がわかるような代表的なもの 4 点程度を枠内に収まるように添付してください。直下にその写真の説明を加えてください。

#### 14. 事業計画図（縮尺 1/5,000 又は 1/10,000、A4 又は A3 用紙 1 枚）

- ・ 具体的な面的計画を明らかにした図面  
本事業の対象区域、施業実施区域（搬出・伐捨間伐等）、路網計画（林業専用道、森林作業道別等）を明示してください。

< 記載例 1 >

2020 年度（通常の申請）

9. 事業対象地とハード事業の内容

(1) 事業対象地の森林

所在地	区域面積	実施面積	森林所有者数
○県○郡○町○大字○○～△△番地、	150.00ha	55.00ha	80名
〃 □□番地	100.00ha	35.00ha	20名
	計 250.00ha	計 90.00ha	計 100名 (うち実施面積 60名)

(2) 事業実施箇所ごとの森林現況とハード事業の内容

番号	区域面積	樹種・林齢 (年齢)	実施面積 ha	ハード事業の内容
1	150.00	ヒノキ 5 年齢級	30.00	伐捨間伐 30ha 3 残 1 伐列状間伐 25ha 搬出総材積 1,500 m <sup>3</sup> (蓄積 350m <sup>3</sup> /ha × 材積間伐率 25% (支障木含む) × 搬出率 90% × 歩留まり 75% ÷ 搬出材積 60 m <sup>3</sup> /ha)
		スギ 8 年齢級	15.00	
		スギ 9 年齢級	10.00	
		実施面積計	55.00	
2	100.00	ヒノキ 5 年齢級	20.00	伐捨間伐 20ha 定性間伐 15ha 搬出総材積 900 m <sup>3</sup> (蓄積 350m <sup>3</sup> /ha × 材積間伐率 25% (支障木含む) × 搬出率 90% × 歩留まり 75% ÷ 搬出材積 60 m <sup>3</sup> /ha)
		ヒノキ	15.00	
		10～12 年齢級		
		実施面積計	35.00	
3	250.00	(全域)		作業道開設 6,000m・補修 600m (幅員 3.0m)

10. ソフト事業の内容

<p>所有者案内通知・座談会開催：不在村者を含むスギ・ヒノキ人工林所有者 100 人を対象に、案内の通知および座談会の開催を通じて、長期の施業委託契約を締結する。</p> <p>境界明確化等調査：施業計画の取りまとめを図るために、境界明確化等の調査を実施して施業集約化の計画を策定する。</p> <p>現地講習会：施業集約化・ハード事業の達成を目的として、講師を招いた現地講習会を開催する。</p> <p>検証・分析：新旧作業システムの工程調査およびコスト等の比較検証・分析を行う。</p>
---

11. 施業カレンダー

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
所有者案内通知											
座談会開催											
境界明確化等											
作業道開設・補修											
現地講習会											
踏査・作業道設計											
伐捨間伐											
間伐研修											
間伐・搬出											

< 記載例 1 >

2020 年度 (通常の申請)

12. 事業費・助成金

		費用・収入等	算出根拠	単位
ハ ー ド 事 業 経 費	選木費	960,000	2,400 m <sup>3</sup> ×@400	円/m <sup>3</sup>
	伐出費	19,200,000	2,400 m <sup>3</sup> ×@8,000 (伐倒・集材・造材含む)	円/m <sup>3</sup>
	運搬費	4,800,000	2,400 m <sup>3</sup> ×@2,000	円/m <sup>3</sup>
	作業道開設費	9,180,000	(開設)6,000m×@1,500 (補修)600m×@300	円/m
	伐捨間伐費	7,500,000	50ha×@150,000	円/ha
	機械リース費	2,000,000	ハーベスタ(0.45 m <sup>3</sup> ) 4ヶ月×@500,000	円/機
	小計①	43,640,000		
ソ フ ト 事 業 経 費	境界調査費	4,200,000	105ha×@40,000	円/ha
	森林調査費	1,050,000	105ha×@10,000	円/ha
	座談会関係費	200,000	(座談会)2回×@70,000	円/回
			(案内通知等)@60,000	円/一式
	講習会開催費	200,000	(講師旅費・謝金等)2回×@100,000	円/回
	検証・分析費	1,000,000	50人日×@20,000 各工程データ収集・分析等費	円/人日
	看板作製設置費	200,000	2基×@100,000	円/基
小計②	6,850,000			
事業費合計③ (①+②)		50,490,000		
助 成 金 以 外 の 収 入	原木販売収入	16,200,000	スギB材 1,500 m <sup>3</sup> ×@6,000=9,000,000 ヒノキB材 900 m <sup>3</sup> ×@8,000=7,200,000 ※市場手数料、はい積料を除いた手取り単価 樹種、A・B・C・D別に記載	円/m <sup>3</sup>
	その他販売収入			
	補助金	10,910,000	①搬出間伐 25ha×@170,000=4,250,000 ②伐捨間伐 30ha×@102,000=3,060,000 ④作業道 6,000m×@600=3,600,000	円/ha 円/ha 円/m
	収入小計④	27,110,000		
本件助成金額 (③-④)		23,380,000		
自 己 資 金	間伐研修	300,000	3名×管外研修費用(参加費・旅費)@100,000	円/人
	合計	300,000		

※ 本事業の実施に必要で、助成対象外となる経費・物品等があれば自己資金欄に記入してください。

< 記載例 2 >

2020～2021 年度（ソフト事業のみの申請）

9. ソフト事業の事業対象地と内容（2020 年度実施）

(1) 事業対象地の森林

所在地	区域面積	実施面積	森林所有者数
○県○郡○町○大字○○～△△番地、	150.00ha	55.00ha	80名
〃 □□番地	100.00ha	35.00ha	20名
	計 250.00ha	計 90.00ha	計 100名 (うち実施面積 60名)

(2) ソフト事業の内容

<p>所有者案内通知・座談会開催：不在村者を含むスギ・ヒノキ人工林所有者 120 人を対象に、案内の通知および座談会の開催を通じて、長期の施業委託契約を締結する。</p> <p>境界明確化等調査：施業計画の取りまとめを図るために、境界明確化等の調査を実施して施業集約化の計画を策定する。</p> <p>現地講習会：施業集約化・ハード事業の達成を目的として、講師を招いた現地講習会を開催する。</p>
---

10. 施業カレンダー

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2020 年度	所有者案内通知											
	座談会開催		境界明確化等									
	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 5px;">現地講習会</div>											

11. ハード事業の内容と事業実施箇所ごとの森林現況（2021 年度実施）

番号	区域面積 ha	樹種・林齢 (齢級)	実施面積 ha	ハード事業の内容
1	150.00	ヒノキ 5 齢級	30.00	伐捨間伐 30ha 3 残 1 伐列状間伐 25ha 搬出総材積 1,500 m <sup>3</sup> (蓄積 350m <sup>3</sup> /ha×材積間伐率 25%(支障木含む)× 搬出率 90%×歩留まり 75%≒搬出材積 60 m <sup>3</sup> /ha)
		スギ 8 齢級	15.00	
スギ 9 齢級	10.00			
		実施面積計	55.00	
2	100.00	ヒノキ 5 齢級	20.00	伐捨間伐 20ha 定性間伐 15ha 搬出総材積 900 m <sup>3</sup> (蓄積 350m <sup>3</sup> /ha×材積間伐率 25%(支障木含む)× 搬出率 90%×歩留まり 75%≒搬出材積 60 m <sup>3</sup> /ha)
		ヒノキ 10～12	15.00	
		実施面積計	35.00	
3	250.00	(全域)		作業道開設 6,000m・補修 600m(幅員 3.0m以下)

<記載例2>

2020～2021年度（ソフト事業のみの申請）

12. 事業費・助成金

(1) ソフト事業経費（2020年度実施、助成対象）

		費用・収入等	算出根拠	単位
ソフト事業経費	境界調査費	5,000,000	125ha×@40,000	円/ha
	森林調査費	1,250,000	125ha×@10,000	円/ha
	座談会関係費	200,000	(座談会)2回×@70,000 (案内通知等) @60,000	円/回 円/一式
	講習会開催費	200,000	(講師旅費・謝金等)2回×@100,000	円/回
	小計①	6,250,000		
助成金以外の収入	補助金	375,000	施業実施区域の明確化作業（9歳級以下の人工林）75ha×@5,000	円/ha
	その他の収入	0		
	収入小計②	375,000		
本件助成金額 (①－②)		<b>5,875,000</b>		
自己資金	間伐研修	300,000	3名×研修費用(参加費・旅費)@100,000	円/人
	合計	300,000		

(2) ハード事業経費（2021年度実施、自己資金）

		費用・収入等	算出根拠	単位
ハード事業経費	選木費	960,000	2,400 m <sup>3</sup> ×@400	円/m <sup>3</sup>
	伐出費	19,200,000	2,400 m <sup>3</sup> ×@8,000(伐倒・集材・造材含む)	円/m <sup>3</sup>
	運搬費	4,800,000	2,400 m <sup>3</sup> ×@2,000	円/m <sup>3</sup>
	作業道開設費	9,180,000	(開設)6,000m×@1,500 (補修)600m×@300	円/m
	伐捨間伐費	7,500,000	50ha×@150,000	円/ha
	機械リース費	2,000,000	ハーベスタ(0.45 m <sup>3</sup> ) 4ヶ月×@500,000	円/機

※ 本事業の実施に必要で、助成対象外となる経費・物品等があれば自己資金欄に記入してください。



